

「気候変動適応と衛星地球観測」

日本写真測量学会 対外協力委員会
日本リモートセンシング学会 実利用委員会

シンポジウム概要

日 時： 2019 年 11 月 28 日(木) 14:00～16:30 (13:30 受付開始)
場 所： 日本科学未来館 7階コンファレンスルーム「天王星」
主 催： (一社)日本写真測量学会、(一社)日本リモートセンシング学会
共 催： (一社)地理情報システム学会

シンポジウム名称及び趣旨 「気候変動適応と衛星地球観測」

【趣旨】

近年、我が国において大規模な気象災害が頻発するなど、世界的にも気候変動の及ぼす影響が顕在化している。気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の第5次評価報告書(AR5)では、温室効果ガス的人為的な排出が停止したとしても気候変動の影響が持続することを指摘し、温室効果ガスの排出の削減を図る「緩和」と気候変動に対応するための「適応」を気候変動のリスクに対応する相互補完的な戦略と位置付けている。また、2015年のパリ協定においても、「緩和」のための削減目標等の作成とともに「気候変動に対し、適応能力を拡充し、強靱性を強化し、脆弱性を減少させる世界全体の目標を設定する」ことが謳われている。これらを受け、2018年には、我が国でも気候変動適応法が公布され、気候変動適応計画が決定された。

本シンポジウムは、上記の動きに対し、特に気候変動適応に対して衛星リモートセンシングの立場からいかに貢献できるかを議論するための情報を集約すべく企画したものである。

講演プログラム (題目は仮題)

(敬称略)

[基本情報]		
14:00-14:20	気候変動適応と環境省の取組み	秋山奈々子(環境省 地球環境局総務課 気候変動適応室 室長補佐)
14:20-14:40	気候変動リスク分析に必要な情報	本郷 尚((株)三井物産戦略研究所 国際情報部 シニア研究フェロー)
[各セクターでの取り組み事例]		
14:40-15:00	漁業の事例	高橋文宏((株)グリーン&ライフ・イノベーション 取締役・技術開発部長)
15:00-15:20	農業の事例	石塚直樹(農業・食品産業技術総合研究機構 農業環境変動研究センター)
15:20-15:40	島しょ国における気候変動下での 高潮・高波ハザードの推定	福田徹(一財)リモート・センシング技術センター 特任参事)
[次期観測計画]		
15:40-16:00	ひまわり及び後継静止気象衛星	安藤昭芳(気象庁 観測部気象衛星課 データ利用計画班長)
16:00-16:15	衛星地球観測ミッション公募と 次世代ミッションの検討状況	本多嘉明(千葉大学 環境リモートセンシング 研究センター准教授)
16:15-16:30	総合討論	

以上